

# 平成 25 年（2013 年）の雲仙岳の火山活動

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## ○発表中の火山現象に関する警報等及び噴火警戒レベル

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 17 分	噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）
----------------------------	--------------------

## ○ 2013 年の活動状況

### ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2-①、図 5～8）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度でした。

3 月 6 日に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、噴気地帯の温度分布に特段の変化はありませんでした。

\* 3 月 19 日から 4 月 14 日以外は、気象庁野岳遠望カメラ障害のため、雲仙復興事務所岩床山監視カメラで噴気の有無を観測しています。

### ・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3、表 1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は主に平成新山直下の 0～2 km 付近に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

### ・地殻変動の状況（図 4、図 9～11）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

3 月 7 日および 11 月 22 日に実施した仁田峠第 2 展望所からの光波測距観測では、観測点間の距離に大きな変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、九州大学、国土地理院及び長崎県を経由した九州地方整備局（雲仙復興事務所）のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用、『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号、平 23 情復、492 号）。



図 1 雲仙岳 噴気の状態 (図中赤矢印) (3月26日、野岳遠望カメラによる)

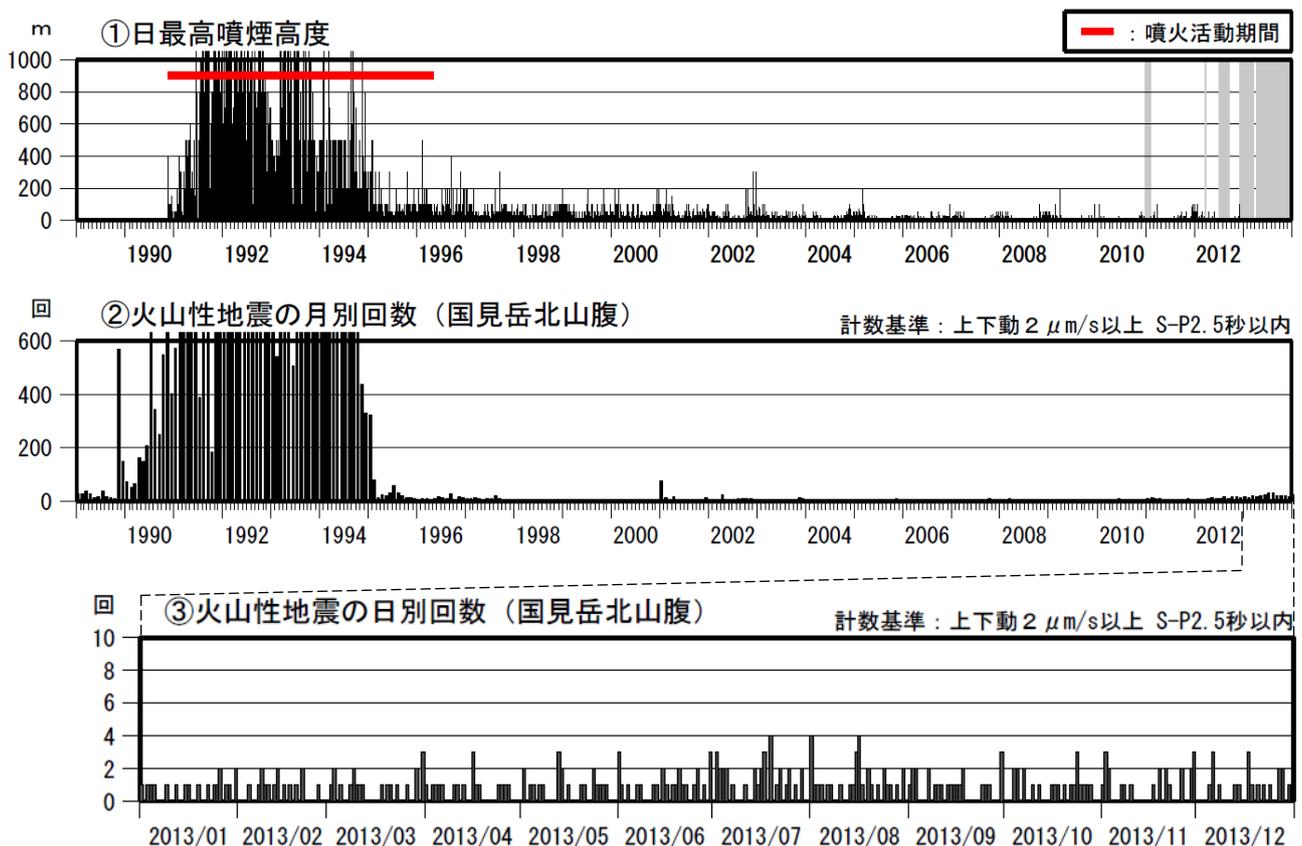


図 2 雲仙岳 火山活動経過図 (1989年1月～2013年12月)

<2013年の状況>

1995年2月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準 (上下動  $5 \mu\text{m/s}$ 以上) で計数しています。灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

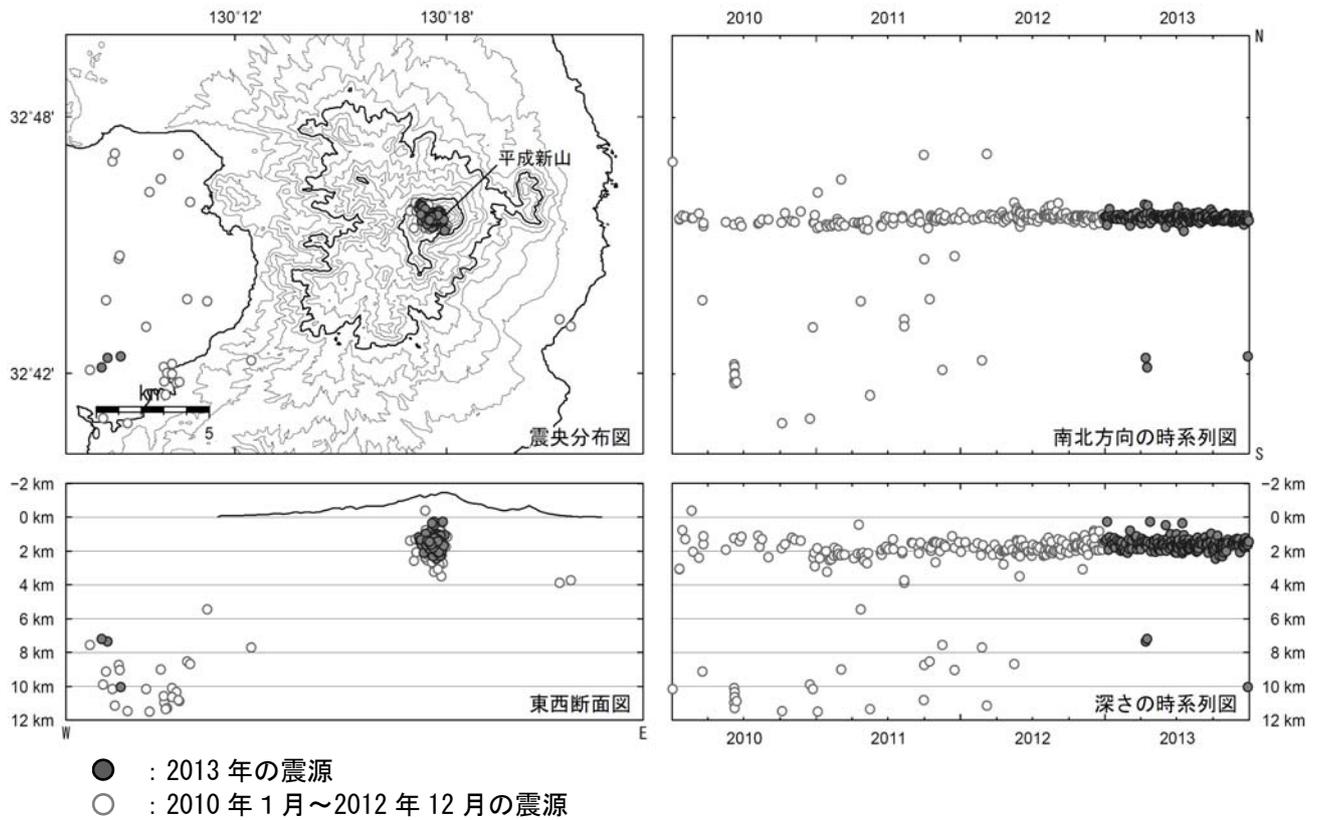


図 3 雲仙岳 火山性地震の震源分布図（2010 年 1 月～2013 年 12 月）

<2013 年の状況>

震源は主に平成新山直下の 0～2 km 付近に分布しました。

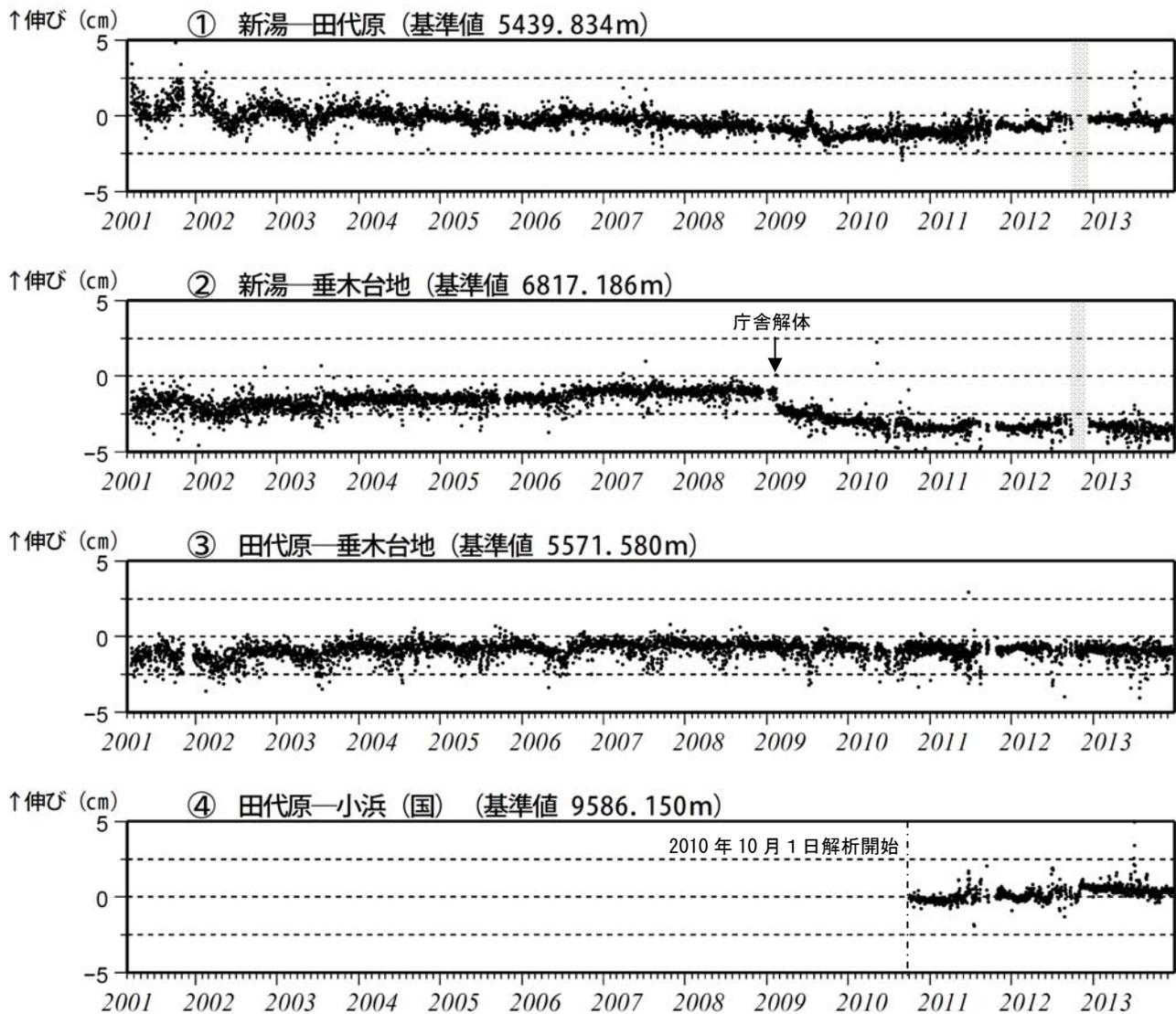


図 4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化 (2001年3月～2013年12月)

<2013年の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

これらの基線は図 11 の①～④に対応しています。

②の基線にみられる 2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

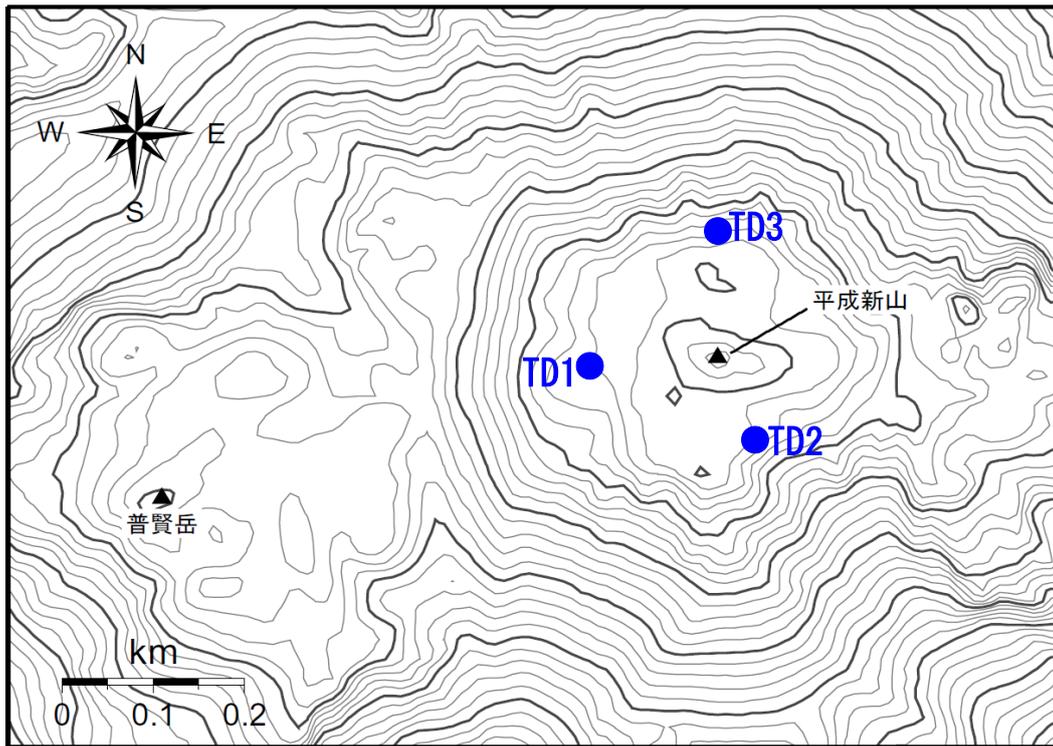


図 5 雲仙岳 赤外熱映像観測点配置図

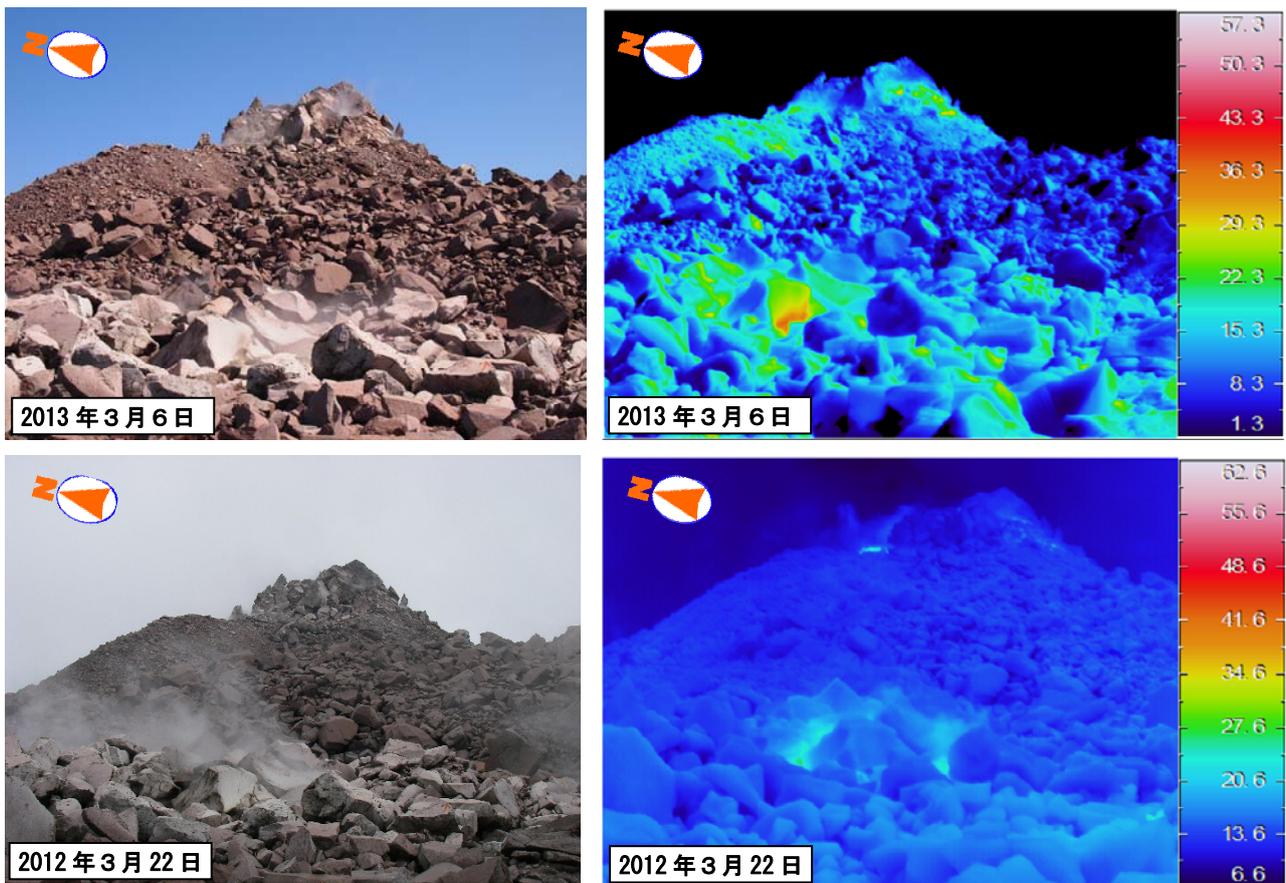


図 6 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布 (TD1 から撮影)  
赤外熱映像装置による観測では、噴気地帯の温度分布に特段の変化はありませんでした。

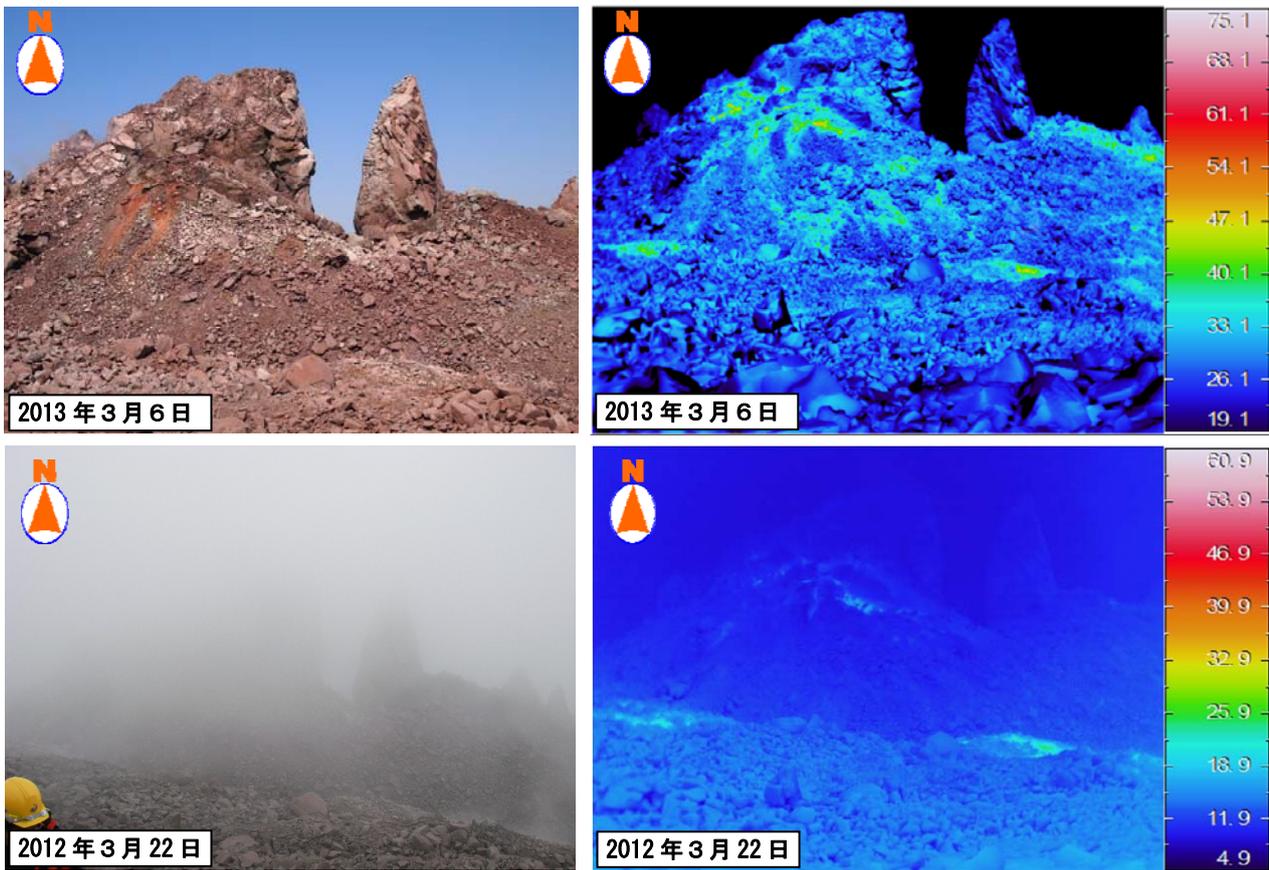


図 7 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD2 から撮影）

赤外熱映像装置による観測では、前回（2012 年 3 月）観測時は霧の影響がありますが、前回と比較して噴気地帯の温度分布に大きな変化はありませんでした。

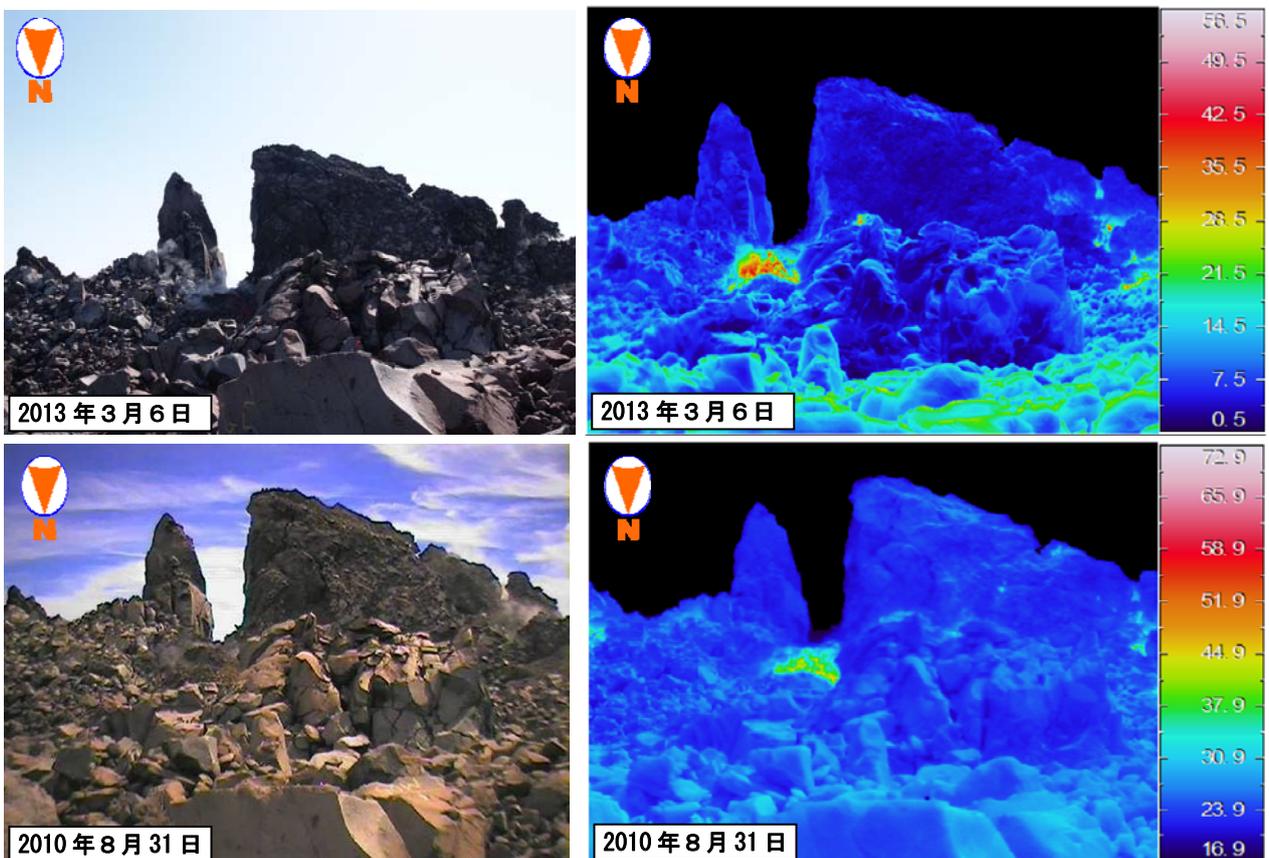


図 8 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD3 から撮影）

赤外熱映像装置による観測では、噴気地帯の温度分布に特段の変化はありませんでした。

雲仙岳



図9 雲仙岳 T6（仁田峠第二展望台）から見た各観測点（左）及び各光波測距測線（右）

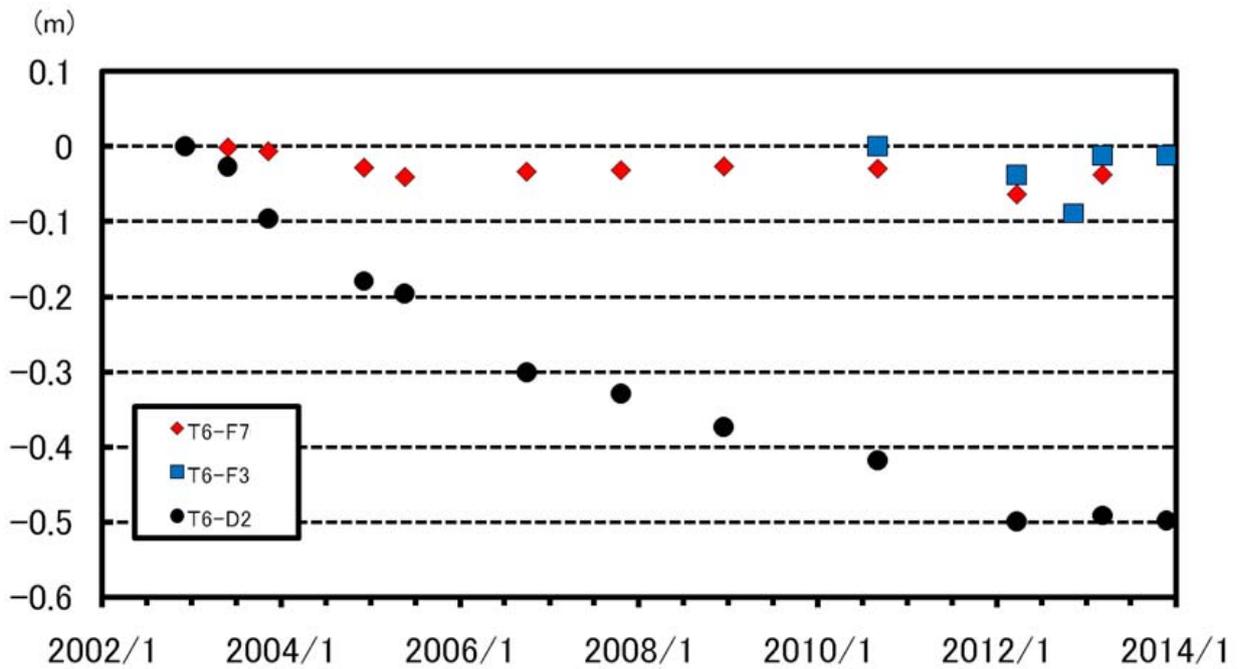


図10 雲仙岳 T6（仁田峠第二展望台）からの光波測距測線距離の時系列変化  
(2002年12月～2013年11月)

3月7日及び11月22日に実施した仁田峠第2展望所からの光波測距観測では、観測点間の距離に大きな変化はありませんでした。

表 1 雲仙岳 2013 年火山性地震日別回数

日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	1	0	0	1	0	3	0	4	1	0	1	0
2日	0	0	1	0	2	1	3	1	2	0	3	0
3日	1	0	2	1	0	0	2	1	2	0	2	0
4日	1	1	0	1	1	1	2	1	0	2	0	0
5日	1	0	1	1	1	0	2	0	0	2	0	1
6日	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
7日	0	1	0	0	1	1	1	1	2	2	1	0
8日	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1
9日	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
10日	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0
11日	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0
12日	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
13日	0	2	0	1	3	1	0	1	1	0	0	1
14日	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	1
15日	1	1	0	0	0	2	1	3	1	0	0	0
16日	1	0	0	3	1	1	2	4	1	1	0	0
17日	0	1	0	1	0	0	3	1	1	1	1	3
18日	0	0	1	1	0	1	0	0	2	1	0	1
19日	1	1	0	0	0	1	4	2	0	0	2	0
20日	0	0	1	0	1	2	0	1	0	1	0	1
21日	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0	2	0
22日	1	0	0	0	0	1	2	1	0	1	1	1
23日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
24日	1	0	0	1	2	0	1	2	1	3	0	1
25日	1	0	0	1	1	1	2	1	1	1	0	0
26日	2	1	1	1	1	2	0	1	1	1	2	0
27日	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	2
28日	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	2
29日	1	/	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0
30日	0	/	0	0	0	3	0	2	3	0	3	1
31日	2	/	3	/	0	/	0	0	/	0	/	0
月合計	18	15	20	17	20	25	32	31	23	21	22	19
年合計	263											

